

講義名	経営戦略論B			授業形態	
担当教員	青木 良三	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

- ・本講義の主題は、経営戦略論を学習するものにとって当然知っておくべき基本的知識を解説することにあります。理論のみならずケースも紹介しますので、実際のビジネス界の出来事も学習できる内容になっています。
- ・本講義では、経営戦略論のうち企業（全社）戦略について解説します。
- ・なお、事業（競争）戦略と機能別戦略については、経営戦略論Aで行います。
- ・本講義のレベルは、入門書レベルに一部中級レベルの話が加わります。経営戦略論Aよりは講義内容はむずかしいと思います。

到達目標

- 学生は、本講義を受講することによって、経営戦略に関する理論を理解できるようになります。
- 学生は、それらの理論を使って、企業経営を分析できるようになります。
- 学生は、企業経営の仕組み、とくに経営戦略を、理論に基づき、自ら考え、理解することができるようになります。

提出課題

- ・中間レポートと期末レポートの得点合計により成績評価します。
- ・配点は、中間レポート40点、期末レポート60点で、合計100点満点になります。
- ・中間レポートは、11月初旬に告知、11月末頃締め切りの予定。
- ・期末レポートは、12月中旬に告知、1月中旬に締め切りの予定。
- ・成績評価方法を変更する場合は、すみやかに連絡します。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

- ・レポート課題や質問について、講義の際にフィードバックしますが、内容に応じて講義連絡や質問者に直接電子メールでフィードバックします。

評価の基準

- ・中間レポートと期末レポートの得点合計により成績評価します。
- ・配点は、中間レポート40点、期末レポート60点で、合計100点満点になります。
- ・中間レポートは、11月初旬に告知、11月末頃締め切りの予定。
- ・期末レポートは、12月中旬に告知、1月20日頃締め切りの予定。
- ・成績評価方法を変更する場合は、すみやかに連絡します。

履修にあたっての注意・助言他

- ・レポート課題は、授業中に話したことや板書した事柄、授業中に配布した資料から出題します。授業の欠席が多いと、レポート作成がむずかしくなるので気をつけてください。
- ・レポートを中間、期末の2回提出しないと単位取得がむずかしくなるので注意してください。

教科書

・「使用しない」。

参考図書

・「なし」。

その他

- ・キャンバスクロスから資料をダウンロードできるようにします。必ず事前に資料を読んでおくようにしてください。

授業計画

- 1.経営戦略の体系
- 2.経営理念、ビジョン、ミッション
- 3.ケーススタディ パナソニック、ソニー、ホンダ
- 4.事業の定義と企業ドメイン
- 5.ケーススタディ 富士フイルム
- 6.アンソフの製品 市場マトリックス
- 7.ケーススタディ プリヂストンの市場開発戦略
- 8.ケーススタディ キヤノンの多角化戦略
- 9.M & A戦略
- 10.グローバル戦略
- 11.ケーススタディ コカ・コーラ、P & G
- 12.経営戦略の決定プロセス
- 13.外部環境分析（機会と脅威の発見）と内部環境分析（強みと弱みの認知）
- 14.SWOT分析
- 15.ケーススタディ ファーストリテイリング（ユニクロ）

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="radio"/> エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	<input type="radio"/> カ：実習、フィールドワーク
<input type="radio"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・予習について、テキストはありませんが、配布した資料を読んでおいてください。
- ・復習は、配布した資料を読んで、出てくる経営学の用語の意味をしっかりと理解し、使えるまで学習してください。
- ・予習に2時間、復習に2時間が目安になります。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

- ・本授業を履修することにより、経営理論や事例を理解することで、情報収集力、情報分析力、課題発見力、課題解決に向けた構想力といった能力を身につけることができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

- ・レソバを使う場合は、事前に講義連絡します。

実務経験の有無及び活用

- ・実務経験あり、1979年から1997年まで銀行に勤務。産業調査や融資、ファンド運用を担当しました。授業で取り上げる企業の事例について、企業分析の実務経験を踏まえたコメントができます。新聞記事とは違ったコストができると思います。

備考

- ・講義について不明な点は、公開された電子メール（ryoza_aki@red.umds.ac.jp）で対応します。